伊緒里優子

幕末疾氏伝 PITBURO - 全生狼一

藤堂平助 吉は広び 亜ぁカカ野の瀬ヶ矢ゃオル (医師)

(看護師

剣客たち

比^ひ佐さ (女中頭)

みね

(女中)

明書を表しませた。 小: 高か 市 りゅ 初はつ 菊 尾 駒 : 霧 音 音 ねね まめ花 (かむろ) (かむろ) (遊女) (遊女) (遊女) (遊女)

デサリック (中央) 1 (中央)

声

1 プロロ ロ *う*

どこからか仲間を呼ぶようなオオカミの遠吠えが聞こえてくる。

遠くでヘリコプターのプロペラ音。

丘の上に登山着姿の女性の人影が見える。

レスキュー隊が女性を見つけ、上空のヘリに向かってロープを下ろすよう合

やがてラジオのニュース音声が重なる。

図する。

次のニュースです。犬ヶ岳に入ったまま今月十五日から行方不明に

5

続けられて――」 助されたのは大神市に住む日比野カオルさんで、十三日早朝に兄の光平さん 兄の光平さんの行方はいまだ分かっておらず、今も警察と消防による捜索が とともに山に入ったまま、下山予定の十五日を過ぎても連絡が取れなくなっ なっていた女性が、今日午前レスキュー隊によって無事保護されました。 ていたものです。発見時、日比野さんは衰弱していたものの大きなケガはな 警察は日比野さんの回復を待って事情を聞くことにしています。ただ、

みなサムライ姿で過去の幻影のように佇む影が、やがてゆっくりと闇に溶け 夕日の中に数人のシルエットが浮かび上がる。

暗転が明けると、 場面は病院の中庭。カオルがパジャマ姿でベンチに腰掛け

そこへ、亜矢がやってくる。

ている。

カオル。

カオル

亜矢。

病室にいないから、きっとここだと思って。気分はどう?

亜矢

もう全然平気。毎日病院食じゃ飢え死にしちゃいそうで……。さっき先生に

カオル

「退院まであと一週間はかかる」って言われてさ。勘弁してよ。

亜矢

こうして生きてるのだって不思議なくらいなんだから、もう少しおとなしく

してるのね。

やだなぁ。体はどこも悪くないのに、まわりが大げさに騒ぎすぎ――

カオル

亜矢

どうかした? 気分でも悪い?

ううん。ちょっと今と似たようなセリフを言ってた人を思い出しただけ。

カオル

カオル

「体はどこも悪くない」ってセリフ?

(うなずく)

···・・ふーん。

亜矢

- 1

プロローグ

そこへ、カオルの担当医の広瀬と看護師の吉野が現れる。

亜矢が広瀬に気づく。

亜矢 (カオルに) ねえ、なんか喉乾いちゃった。ジュース買ってきてくれない?

カオル えーっ? 病人に使いっ走りさせるつもり?

もちろんアタシのおごり。(財布を出す)

カオル 行ってまいります!

亜矢

駆けていくカオルの背中を見送る吉野。

早っ! 病院で全速力はマズいでしょ。

吉野

広瀬 彼女、元気そうでしょう?

広瀬 亜矢 変わった? どういうふうに? ええ。でも、やっぱりなんかあの事故の前とは変わった気がします。

8

うまく言えないけど、そんな気がするんです。あんな目に遭ったんじゃ、

リないのかもしれないけど。

広瀬

彼女、お兄さんとは仲が良かったんですね。

亜矢 小さい頃からカオルの自慢だったそうです。 出来の悪い妹の自分と違って正

義感が強くて、おまけにアタマも良かったって。お兄さんは大学で絶滅

を研究してたんです。

亜矢

吉野 ええ。とくにニホンオオカミを専門に。カオルと山に入ったのは、そのオオ 絶滅動物?

カミを探すためだったんです。

亜矢

え。でも、いま絶滅動物って――

信じてたんです。……皮肉なもんですね。そんな百年以上も昔に絶滅した生 信じてたんですよ。この国のどこかに今でもオオカミが生きてるって、そう

き物を探しつづけて、最後は自分も山の中に消えてしまうなんて。

- 1

広瀬

そうだ、あなたに見ていただきたいものがあるんです。

広瀬が薄汚れたノートを亜矢に手渡す。

亜矢がページをめくる。

広瀬

荷物の中から見つけた彼女の日記です。山に入った日からほぼ毎日書かれて

ます。

亜矢 あれ? これって……なんかヘンじゃないですか?

広瀬 そのページは九月二十二日、救助された日のはずなんですが

亜矢 それ以降も日記が続いてる……。

広瀬 付を信用すれば、その期間は約四年間 ええ。それもかなりの長期間にわたって書かれてるんです。彼女の書いた日

広瀬 四年? でもカオルが救助されたのは、遭難から一週間後のはずじゃ---ええ、警察の人も首を傾げてました。でも、筆跡から考えても間違いなく彼

女の日記なんです。それも四年にわたって書かれてる。

広瀬 亜矢 それと、もっと奇妙なのはその中身なんです。最後まで読んでみたんですけ ど、その内容があまりに突拍子もなくて。どうしても彼女の幻想としか どういうことですか?

そのとき、遠くから雷鳴が聞こえる。

す。吉野さん、ご案内して。

ひと雨来そうですね。待合室のほうで読んでてください。彼女を探してきま

はい。

吉野

広瀬

亜矢 広瀬 いいえ、カオルはそういうのにはほとんど興味なかったと思いますけど? あ、そうだ。彼女は歴史に詳しかったみたいですね。とくに、日本史には。

広瀬 ……そうですか。

亜矢 それが何か?

広瀬

いえ、だったらいいんです。

広瀬が去ると同時に雨が降り始める。吉野と亜矢が悲鳴をあげて軒下に駆け

込む。

すごい雨ですね~。あ、タオル持ってきます!

吉野が去る。亜矢が肩の水滴を払い、ノートを読み始める。

「九月十七日・深い霧のなか、ふと気がつくとそばに兄はいなかった。何度 呼んでも答えがない。寒くて怖くて、なにもできずにふるえている私の耳に

亜矢

かすかに聞こえてくる獣の声。その声は不思議とどこか懐かしく、優しかっ

た。それはまるで仲間を求めるオオカミの遠吠えのような――」。(顔を上げ

る) オオカミ?

Ι2

カオル

雷鳴。

亜矢がノートに目を戻す。ノートを読み上げる亜矢の声にカオルの声

が重なる。

登山着姿のカオルがやってくる。

ない。ただその思いだけがその時の私を支えていた」

るほうにひたすら歩きつづけた。死にたくない。こんなところで終わりたく るのかもしれない。私は棒のようになった足を引きずりながら、その声のす かすかに聞こえてくる。飼い犬だろうか。だとしたら、近くに人が住んでい

ぼっちでさまよい歩いているような気がする。あいかわらず、あの遠吠えは 「兄とはぐれてからどのくらい経ったのだろう。もう何年も、こうして独り

カオルがトボトボと去る。

- 1 プロローグ 声

うわああああ!

2 暗殺

らし出す。ここは幕末の京。古い町は眠りにつき、聞こえるのは大粒の雨が 漆黒の闇の中、 土砂降りの雨が降っている。 時折光る稲妻が周りの風景を照

そのなかに一軒の町屋がある。壬生村の郷氏・八木源之丞の邸宅である。

瓦を叩く音と雷鳴のみ。

雨戸が内側から蹴破られ、 男が転がり出てくる。

芹沢

なんじゃ、おぬしらは! このわしを芹沢鴨と知っての狼藉かあ!

男の名は芹沢鴨。手に刀を握って、水びたしの庭にはいずり回る。

その男を追って三人の男たちが庭に躍り出る。

三人とも刀を手に、頭には手ぬぐいをかぶっており、ギラギラと殺気を放っ

何者だ! 名乗らぬか!

ている。

芹沢

無言のまま斬りつけてくる男たち。芹沢も負けじと応戦する。芹沢の鋭い剣

雷鳴がとどろく。その光の中に笠をかぶった別の二つの影が浮かぶ。 さばきに苦戦する三人。どちらも動けぬまま、にらみ合いが続く。

その二人の顔を見て、安堵の表情を浮かべる芹沢。

暗殺

芹沢 おお、おぬしたち・助かった。手を貸してくれ。賊じゃ。寝込みを襲われ

た。いくらわしでも三人相手ではどうにも

二人 ……。(動かない)

芹沢 どうした。なにをしておる。

……。(芹沢を見る)

二人

ま、まさかおぬしら……。おのれ、謀りおったなぁ!

芹沢

芹沢が笠の二人に斬りかかる。しかし、胴を斬り払われよろける芹沢。

バカめ。このわし抜きで、おぬしらだけで倒幕派どもと渡り合えると思って

芹沢

五人がそれぞれ笠や手ぬぐいを取る。長身の男は土方歳三。笠のもう一人は とどめを刺されて絶命する芹沢。その屍を冷たく見下ろす四人。

16

降っている。 沖田総司。手ぬぐいの三人は、山南敬助、 顔を見合わせその場をあとにする五人。あとにはただ土砂降りの雨だけが

原田左之助と斎藤一。はらださのまけっさいとうはじめ

____2 暗殺 17

あとがも

「やっぱ殺陣劇団としては、もうそろそろ新選組やりたいよね!」

なったのは二〇〇二年初夏。 誰かが言い放ったこのセリフがきっかけで、私が「新選組」がテーマの脚本を書くことに

決める話し合いをしていた時のことだ。 当時拠点を構えていた福岡市内の某ファミレスに幹部メンバーが集まり、次の上演作品を

を」という期待が生まれるのは至極当然と言ってもいい。 からすでに数回の海外公演を経験していたのだが、そんな我々にとって「そろそろ新選組 ウチの劇団は当時の福岡では珍しく「殺陣」を売りにしており、そのおかげで旗揚げ直後

たしかに劇作家の端くれとしては、老若男女を問わず人気が高い「新選組」はいつかは

やってみたい題材ではあった。

ちが、「やあやあ我こそは――」と正々堂々名乗りを上げ一騎打ちをするという、 なシチュエーションにこそ歴史ロマンを感じるタイプ。 だが、もともと大学で軍記物を研究していた私は、きらびやかな鎧兜を身につけた武将た 絢爛豪華

に二時間モノを書くという、極めてハードルの高いミッションを課せられたのである。 要するに新選組が何をやっていた集団なのかさえよく知らない私が、その新選組をテーマ 質素倹約こそ美徳とされた江戸時代以降、とくに「幕末」あたりにはほとんど興味がない。

を徹夜で視聴し、書店で買った『サルでもわかる新選組』などの参考書で年表や組織図を頭 の中に叩き込むなど、まさに毎日が新選組漬けの日々……。 それからは、 司馬遼太郎の『新選組血風録』『燃えよ剣』は言うに及ばず、新旧 のドラマ

になった作品「サンセットシンドローム」である。 そんな数カ月に及ぶ七転八倒の末にようやく書き上げたのが、本作「MIBURO」の元

と、それはそれで苦労した甲斐が少しはあったのかもしれない。 セット――」が私の書いた本のなかでも国内外を問わず最も多く上演されている事実を思う 見すると新選組の芝居とは誰にも気づいてもらえないタイトルではあるが、この「サン

理由は単に、近藤役にふさわしい役者が劇団内に存在しなかったからだが、そのことが私 じつを言うと、旧作の「サンセット――」には近藤勇が最後まで登場しない。

にとって不本意でなかったと言えば嘘になる。

さらに京の街を彩る女たちが登場する華やかなシーンも、芸者や遊女役などをやれる女優

が足りずに泣く泣くカット……。

団」という枠を超えて広く出演者を募集することで、ようやく理想に近いカタチにまで漕ぎ まさに「やり残したコトだらけ」の旧作ではあったが、東京に拠点を移したのを機に「劇

つけることができた。

それにしても、脚本家とはじつに本当に幸せな職業である。

在しない架空の人物や出来事を何とか実体化しようと必死になって知恵を絞ってくれるのだ。 演出はもちろんのこと、キャストは役に命を吹き込み、技術スタッフは舞台に彩りを与え、 なぜなら、昨日までは見ず知らずの他人だった俳優陣が顔をそろえ、私の頭の中にしか存

お客さんは世界観を楽しむためにわざわざ劇場に足を運んでくれる。

ることができているのだ。 つまりは、その人たちのおかげで、私はいい大人になっても自分の空想の世界で遊び続け

れられるほどの喜びもまた同時にもたらしてくれる。 脚本を書くたびに死ぬほど苦しい思いもするが、生みの苦しみ同様その苦痛をケロッと忘

えがたい喜びが待っているのだと信じ、いろんな作品を生み出していきたいと思う。

きっと今後も、毎回もがき苦しみながら脚本を書き続けるのだろうが、その先に何にも代

二〇一七年四月

伊緒里優子

『幕末疾風伝 /MBURO ~壬生狼~』(旧題:サンセットシンドローム)

海外公演

2002年10月 馬山オリンピック記念ホール/韓国

2003年5月 番川文化芸術会館/韓国2003年5月 MBCホール/韓国

2013年8月 モンテカルロ歌劇場/モナコ2007年8月 浦項へマジ公園野外劇場/韓国

国内公演

2017年5月 2006年11月 2003年5月 2002年10月 12 月 11 月 かめありリリオホール 男女共同参画センター・ムー レソラNTT夢天神ホ 福岡サンパレス/福岡市 早良市民センター大ホール/福岡市 スカラエスパシオ/福岡市 i ル /東京都葛飾区 /福岡市 ブ /北九州市

伊緒里優子 (いおり・ゆうこ) /PN:石井亮

福岡県出身。福岡大学日本語日本文学科卒業。 主に舞台俳優・殺陣講師として活動するかたわら、 1999年「紫雲の涯て」より劇団SAKURA前戦の 脚本・演出などを担当。以来、「ポセイドンの 娘」「サンセットシンドローム」などのストー リー性を重視した作品を数多く生み出す。2000年 からは海外での上演を数多く経験。それ以降、海 外での公演を想定したテンポの良い脚本構成に力 を入れている。十数回にのぼる海外での経歴を評 価され、2016年9月国際アマチュア演劇協会の日 本センター事務局長に就任。

この作品を上演する場合は、伊緒里優子ならびに劇団SAKURA前戦の許可が必要です。必ず上演を決定する前に劇団ホームページにある「上演許可申請フォーム」に必要事項を記入のうえ送信してください。

無断での使用または内容に著しい改編が行われた場合は、上演をお断りすることがあります。

[劇団ホームページ] http://www.sakuzen.com

幕末疾風伝/NJBURO ~壬生狼~

2017年6月19日 初版第一刷印刷 2017年6月30日 初版第一刷発行

著 者——伊緒里優子

発行者——森下紀夫

発行所——論創社

東京都千代田区神田神保町 2 - 23 北井ビル tel. 03 (3264) 5254 fax. 03 (3264) 5232 web. http://www.ronso.co.jp/

振替口座 00160-1-155266

装 画——ラヴ&ピース川津

題 字——金井麗雲(+new company)

組版·装幀——永井佳乃

印刷·製本——中央精版印刷

ISBN 978-4-8460-1627-2 © 2017 IORI Yuko, Printed in Japan 落丁・乱丁本はお取り替えいたします。